

教育目標:	自ら考え 判断できる人(確かな学力の定着)、心身ともにたくましい人(健やかな体の育成)、心豊かな思いやりのある人(豊かな心の醸成)、互いに協力し 創造できる人(輝く未来の創造)
目指す学校像:	授業を通して互いに高め合える学校、生徒の人格と未来が尊重されている学校、校風「団結・克己・責任」を継承・発展する学校、大規模災害を想定した防災教育の充実が図られている学校
目指す児童・生徒像:	人として大切なこと、社会に出た時の基本を身に付けている生徒 超スマート社会 Society5.0に向けて、自ら学び、世界の平和を願い、国際社会に活躍できる生徒
目指す教師像:	生徒に達成感を味わわせ、確かな学力・自己肯定感を育ませることのできる教師 必要に応じて、毅然とした態度で指導にあたることのできる教師

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標 (中間)	努力指標 (最終)	成果指標 (中間)	成果指標 (最終)	今後の課題	学校関係者評価記入欄
ウエルビーイングの向上	人権尊重の精神を基調とした教育活動を推進し、豊かな心を醸成する。	・より良い人間関係を築く力、協力して学級や学校の生活の充実、向上を図る力の育成	6月と11月に相談週間を設定し、生徒の困り感等を適切に把握し、学校の居心地感を高めると同時に、不登校や問題行動等の未然防止に努める。 ・「特別の教科 道徳」において、考え議論する授業の充実を図るとともに、教育活動全体を通じて道徳教育を推進する。	4	／	4	／	困ったことはいつでも大人に相談できる関係や環境を整える。そのために、教職員の日々の生徒の見守りはもちろんのこと、教職員間の情報共有や連携を密にし、様々な角度から言葉掛けを行う体制を整え、生徒の安心に繋げる。	・相談週間等、学校側が生徒に寄り添い継続的に見守っていこうという姿勢が評価できる。 ・「大人＝先生」という認識が強いので、「家族」「地域の人」「友達」に相談することも大切なことだという意識に転換していくことも必要である。
		・「不登校支援対応」の充実	・サポート教室を常設し、サポート支援員及び特別支援コーディネーターを核として居心地の良い居場所の提供を推進する。 ・相談部会の機能を充実させるとともに、関係諸機関との連携を密にし、誰とも繋がっていない生徒をゼロにする。	4	／	1	／	今年度に入り、サポート教室の体制を整え、利用人数や対応を幅を拡充し、「居場所」としての機能を高めた。取組内容を全校に周知し、誰もが安心して登校できる環境を整えるため、学校だより等をおして情報を発信していく。	・サポート教室の環境整備が進んでいることがよくわかった。学校側の取組が保護者や地域に伝わるよう、様々な場面で説明していく必要がある。サポート教室での過ごし方や活動内容等も伝わるようにして欲しい。
		・職場の労働環境を整え、働き方改革を推進する。	・学校業務改革支援委託事業の対象校として、事業者との連携を密にし、教員の働き方改革を推進する。	3	／	／	／	業務改善の意識が高まり、SSSとの連携やICTの利活用が進んでいる。一方で3割以上の教職員が月45時間以上の超過勤務となっているため、今後はPWCコンサルと連携し、課題を整理しながら実効性のある改革を進める。	・外部スタッフと連携することで先生方の就業時間や業務内容が改善されることを願います。 ・地域の学校であるので、地域としても協力できることはサポートできるようにしていきたい。
学びに向かう力の向上	各教科の見方・考え方を明確にして、確かな学力を定着し、健やかな体を育成する。	・生徒の探究的活動、主体的・対話的で深い学びの実現	・一人1台タブレット型パソコンを活用した個別最適な学びと協働的な学びへの授業改善を行う。 ・ファシリテーションの手法を活用し、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する過程を重視した授業改善を行う。	4	／	4	／	タブレット端末の活用が個別最適な学びや協働的な学びの実現に繋がる場面が増えている。今後は、授業だけでなく、不登校生徒や欠席生徒の学びの充実に向けても、タブレット端末を有効に活用する。	・タブレット端末の利用により、様々な学びのスタイルが確立されていることは評価できる。 ・タブレット端末が有効に活用されていることは良いことだが、丁寧に字を書くこと、ノートにまとめることに対する意識が低下しないように、バランスを意識してほしい。
		・読書習慣の定着による、学びの基礎となる読解力の向上	・朝読書を定着させ、読書習慣を身に付けさせる指導を実施する。 ・学校の図書館司書・司書教諭を活用し、読書活動推進のイベントを充実する。 ・並木図書館との連携を図り、読書の啓発活動を推進する。	4	／	3	／	自らすんで本や活字に触れる機会を増やしていくことが課題である。今後は、図書館司書や並木公民館と連携し、ビブリオバトルの実施や読書ポップの掲示を行うなど、生徒の興味関心に繋がる活動をより一層充実させる。	・本を手取る機会が減っているので、朝読書等で読書の機会を確保していることは評価できる。ビブリオバトルや本の紹介は読書のきっかけづくりとなるため、継続してほしい。 ・本だけでなく、タブレット活用を認めていくなど、現代の形に合わせた取組も必要だと感じる。
		・運動の日常化による体力・運動能力の向上	・体育健康教育推進校の成果を活かした先進的な取組の充実を図る。 ・学期に1回の体力テストの結果を活用した体育的取組の充実を図り、運動を日常化させ体力を向上させる。	4	／	3	／	新体力テストでは、総合評価のD・E層の割合が男子30.7%、女子18%であった。運動が苦手な生徒も、生涯にわたって運動に親しむことができるよう、運動の心地よさや楽しさを味わうことのできる取組を実践し、主体的に運動に関わる生徒を育成する。	・タブレット等を活用し、自分の動きを分析し、課題を解決していく取組は評価できる。 ・運動が苦手な生徒たちが生涯にわたって運動に親しむことができるよう、体力向上だけでなく、運動の楽しさや必要性を理解させていってほしい。
未来に向かう力の向上	保護者・地域・関係機関と連携した取り組みを充実し、輝く未来を創造する力を育てる。	・コミュニティ・スクールとして、地域と連携し、地域に貢献しようとする態度、自治能力の育成	・CSコーディネータと連携し、保護者や地域人材が積極的に教育活動に参画できる環境を整備し、コミュニティ・スクールとしての充実を図る。 ・各学年の総合的な学習の時間に探究的な学びの要素を深めることに重点を置き、「国分寺学」の推進を図る。	4	／	3	／	ボランティア部の創設や検定関係の地域サポートなど、地域連携がより一層進んできた。生徒の実感に繋げるために、生徒会と学校運営協議委員との会議を企画するなど、生徒・地域が主体的に活動できる関係を構築する。	・ボランティア部の活動をおして、地域連携について生徒が主体的に考えるようになることで、地域連携の活性化に繋がるとともに、生徒の成長に繋がると感じている。 ・子どもたちの発想や思いを優先し、「提案できた」「実践できた」の体験を重ねることができようような教育活動を実現してほしい。
		・小中連携した安全教育を実施し、一人一人を尊重する態度の育成と地域防災の向上	・「生命(いのち)の安全教育」の推進を図るため、CS推進事業において授業公開、研究協議を実施する。 ・防災意識の向上を図るとともに、有事の際に中学生が地域の力となるために、地域人材を活用し、地域と一緒に合同避難訓練を実施する。	4	／	4	／	CS推進事業において、「生命(いのち)の安全教育」を実施し、発達段階を考慮した指導を小中連携の視点で研究協議を行うことができた。安全教育における中学校区の課題を学校・地域含めた地域全体で共有し、連携して課題解決に取り組んでいく。	・小中連携した「生命の安全教育」の実践は評価できる。被害者にも加害者にもなり得ることを学んで欲しい。また、教員からの授業も大切だが、併せて外部講師の活用も検討できるとさらに良い。 ・地域とともに行う防災訓練をおして、中学生が地域防災に積極的に関わってくれるようになると良い。
		・キャリア発達に関わる諸能力の向上	・1年次の職場体験学習、2年次の上級学校学習等において、将来設計能力等を育成し、3年次の適切な進路選択につなげたり、将来への見通しをもたせる。 ・ボランティア活動や国分寺学の学びをおして、「地域からの学び」を「地域への貢献」に繋げる指導の充実を図る。	4	／	4	／	職場体験や上級学校学習等の学校行事だけでなく、国分寺学やボランティア活動等をおして、探究的な学習の充実を図り、自らの進路や生き方を切り開く力をつけさせたい。	・キャリア教育・地域学習の充実を目指して、地域として協力できる部分を増やしていきたい。例えば、職場体験の体験先開拓など、地域人材にしかできないことで学校の力になりたい。